

薬物乱用の状況

世界の状況

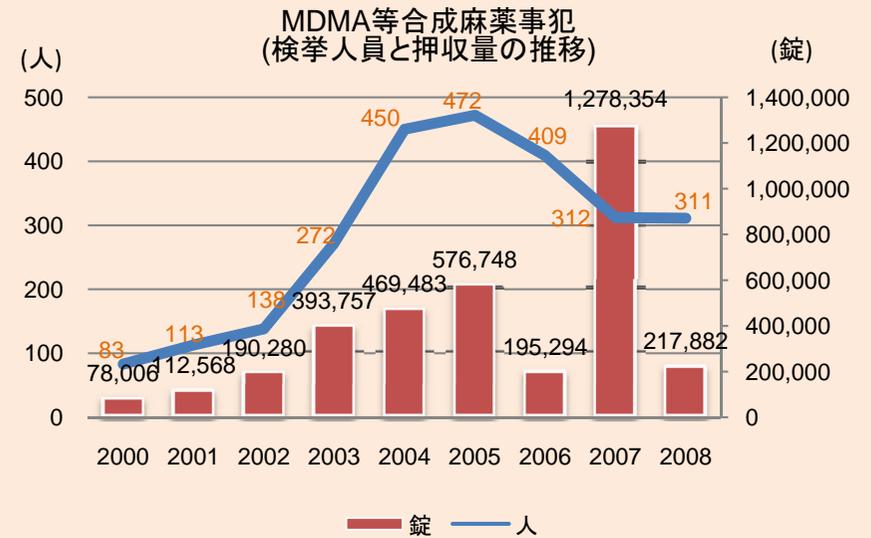
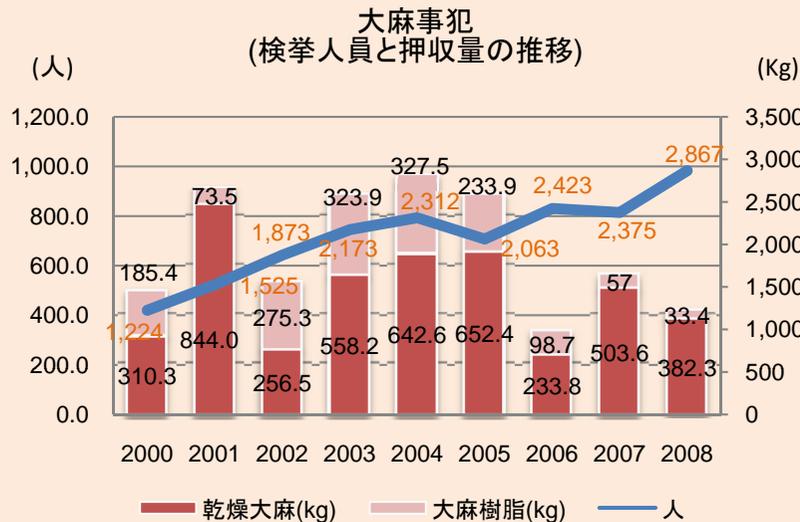
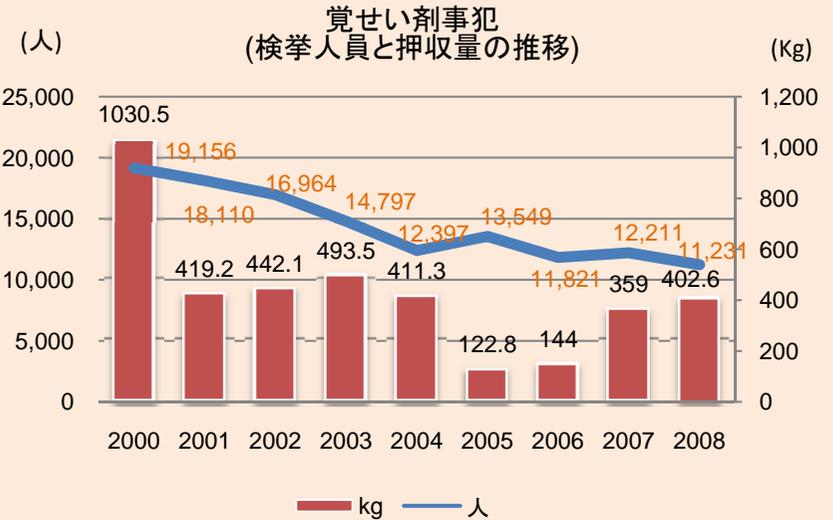
出典: world drug report 2009

大麻、覚せい剤、合成麻薬等の薬物乱用者数(重複有り)

推計値(2007年)
2億百万人~3億6百万人

我が国の状況

我が国の薬物乱用の現状は、平成20年で検挙者数が約1万5千人であり、そのうち覚せい剤事犯が約75%、大麻が約20%を占めている。覚せい剤事犯の再犯率は約6割であり、大麻事犯は6割以上が20代以下の検挙者を占めているなど、薬物情勢は依然として憂慮すべき状況にある。



我が国の薬物犯罪対策

<薬物乱用を許さない厳しい政策を継続して実施>

<対策>

供給阻止

各種取締の徹底

需要削減

各種広報啓発

学校、地域

官民一体となった、地域に根ざした啓発活動の推進

① 覚せい剤等撲滅啓発等委託費

- ・薬物乱用防止キャラバンカー
- ・対話集会
- ・指導員養成研修

青少年

(特に青少年期は好奇心などから、きっかけをつかみやすい時期)

青少年に対する教育・啓発の充実

③ 薬物乱用防止普及啓発推進事業費

- ・啓発読本の配布等

広域

不正薬物はインターネットや携帯電話を介して全国に拡散

全国的な国民運動の展開

② 覚せい剤防止特別対策費

- ・街頭キャンペーン
- ・地区大会

薬物依存症者等

(一度依存性のある薬物を乱用すると抜け出すことは困難)

再乱用防止活動の推進

④ 再乱用防止対策事業費

- ・中毒者相談員らによる電話相談等

事業概要等

1 事業概要

① 覚せい剤等撲滅啓発等委託費

○麻薬・覚せい剤等の薬物乱用による危害を広く国民に周知させ、国民一人一人の認識を高めることにより、麻薬・覚せい剤等の薬物乱用の根絶を図る。

1. 薬物乱用防止キャラバンカーを活用した広報事業

薬物乱用防止キャラバンカーを要請のあった学校等へ麻薬取締官OBなど専門の指導員とともに派遣し、薬物乱用防止に関する正しい知識の普及を図る。

(8台中、5台を当委託事業で運行し、残り3台は(独)福祉医療機構からの助成金で運行している)

2. 青少年薬物乱用防止啓発事業

地域に根ざした啓発活動を推進するため、地域住民が参加し、薬物問題をより身近に感じることができる小規模な対話集会を開催する。

3. 薬物乱用防止中堅指導員養成事業

薬物乱用防止教室の講師等を行える中堅的な指導員を養成するための効果的な研修を開催する。

○すべての中学校・高等学校において、少なくとも年1回の薬物乱用防止教室を開催するよう指導すること。その際、警察職員、麻薬取締官OB、学校薬剤師等の協力を得つつ、その指導の一層の充実を図る。

○研修会の開催、各種啓発資材の活用による薬物乱用防止指導員の資質の向上を図る。

○低年齢層やその保護者世代を対象とした、地域における薬物乱用防止に関する対話集会を開催する。

○「薬物乱用防止キャラバンカー」やインターネットの有効的な活用により、薬物乱用の有害性・危険性についての正しい知識の普及を図る。

[第三次薬物乱用防止五か年戦略より抜粋]

薬物乱用防止キャラバンカー

キャラバンカーは：■薬物標本、人体模型、パネルなどの展示コーナー■パソコンによる薬物乱用防止ゲームコーナー■DVDシステムによる薬物問題のデータコーナー■ホームページによる薬物問題の百科事典コーナー■立体映像(3Dシステム)コーナー■薬物乱用防止教室見学記念のプリントシール及びデジタルカメラプリントコーナー■ビデオコーナーを搭載しており、専門の指導員による解説もあり、薬物乱用防止に関する正しい知識が容易に理解できるように工夫されています。



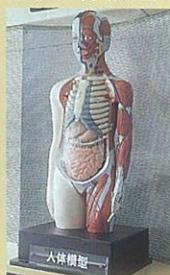
- 学校啓発は、1クラスにつき、1校時の時間帯を目安。(小学校は45分。中学校、高校は50分。)
- 一般向啓発は、1行程で15人程度収容でき、約15分所要。
- キャラバンカーの大きさ
全長 9m 全幅 2.3m
全高 3m 重量 8t

◎展示コーナー

①薬物標本



②人体模型



③パネル



◎映像コーナー (最先端技術による音と映像)

①パソコンゲーム

薬物乱用防止Q&A-1、Q&A-2



②DVD 薬物問題基礎講座



③インターネットホームページ (薬物問題百科事典)



④立体映像 (3Dシステム)



◎ビデオ放映

プラズマ画面40インチ・モニターによる当センター製作の薬物乱用防止啓発ビデオを放映します。



◎フォトクラブまたはデジカメコーナー

薬物乱用防止キャラバンカーの見学記念として、フォトシールまたはデジタルカメラプリントをサービス。



◎乱用される危険のある薬物

乱用される薬物は、私たちの一番大切な脳(中枢神経)を破壊します。乱用される薬物の作用は、脳への影響によって次のように分けられます。

- 興奮作用 ……脳を刺激して興奮させる
- 幻覚作用 ……実際にはないものが見えたりない音が聞こえたりする
- 抑制作用 ……脳を麻痺させて気分をしずみこませたり眠らせたりする

●興奮作用

覚せい剤



MDMA



●幻覚作用

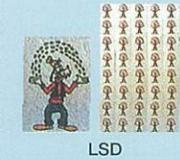
2C-B



コカの葉



塩酸コカイン



LSD



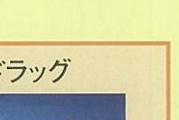
マジックマッシュルーム

●抑制作用

有機溶剤 (シンナー・トルエン・接着剤など)



大麻 (マリファナ)



あへん系麻薬 (ヘロインなど)



向精神薬 (睡眠薬・精神安定剤など)

脱法ドラッグ



吐き気、頭痛、精神への悪影響や意識障害が起きるおそれがあり、麻薬や覚せい剤と同様の危険性が指摘されています。

② 覚せい剤防止特別対策費

○薬物乱用防止に関する啓発運動を全国各地域にて開催するにあたり、必要なポスター、パンフレット等の啓発資材を作成して配布する。

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動
(6月20日～7月19日)



「ダメ。ゼッタイ。」普及運動
ポスター



「ダメ。ゼッタイ。」普及運動街頭
キャンペーン
(全国約510カ所にて実施し、
約27,400人が参加)

麻薬・覚せい剤乱用防止運動
(10月1日～11月30日)



麻薬・覚せい剤乱用防止
運動ポスター



麻薬・覚せい剤乱用防止運動地区
大会
(全国6地区の都市において開催
約3,550人が参加)

- 労働関係機関・青少年労働関係団体等における有職・無職少年を対象とした啓発の充実を図る。
- 地域ボランティア等との連携強化及び啓発資材の提供等の支援を行う。
- 「薬物乱用防止のための指導方針に関する宣言」(国連薬物乱用防止根絶宣言)支援事業として行われる「「ダメ。ゼッタイ。」普及運動」(6月20日～7月19日)を始め、～(省略)～等において、青少年及び青少年育成関係者に対し、薬物乱用の有害性・危険性や薬物乱用防止のための指導方法等についての広報啓発活動を一層積極的に展開する。

[第三次薬物乱用防止五か年戦略より抜粋]

③ 薬物乱用防止普及啓発推進事業費

○ 成長段階にあわせた薬物乱用防止啓発読本を作成し、全国の小・中学校、高等学校、勤労青少年関係団体等に提供することにより、青少年の薬物乱用の拡大を阻止する。

覚せい剤

MDMA
大麻
違法ドラッグ

薬物全般



高校3年生
平成21年度：111万部配布



有職・無職者少年
平成21年度：37万部配布



中学1年生
平成21年度：120万部配布



小学6年生の保護者
平成21年度：117万部配布

薬物全般

○児童生徒が薬物乱用の有害性・危険性について正しい知識を習得するため、薬物乱用防止に関する児童生徒用教材、教師用指導資料等を作成・配布する。
○労働関係機関・青少年労働関係団体等における有職・無職少年を対象とした啓発の充実を図る。
○青少年の保護者向けの啓発読本の作成・配布と、家庭における青少年に対する薬物乱用防止教育の充実を図る。
[第三次薬物乱用防止五か年戦略より抜粋]

④ 再乱用防止対策事業費

○薬物依存症についての正しい知識や、自助活動、相談窓口、治療・支援施設等の情報を網羅的に紹介したパンフレットを関係機関に配布することにより、薬物依存症者らを社会全体で受け入れ、支えることができる環境を作り上げる。

○「ご家族の薬物問題でお困りの方へ」（家族読本）



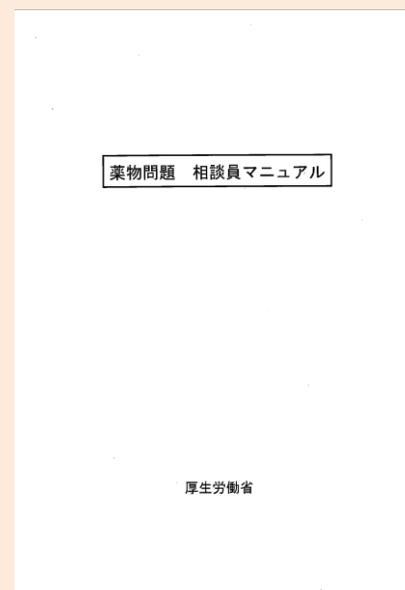
配布実績

平成19年度:4万部

平成20年度:5万部

平成21年度:2万部

○「薬物問題相談員マニュアル」



配布実績

平成19年度:2万部

○薬物問題に悩む家族が早期に相談が出来るようにするための相談窓口の周知・利用促進を図るとともに、相談対応における関係機関の連携を強化する

○児童自立支援施設において、薬物乱用歴がある児童に対し、薬物再乱用防止の教育を引き続き実施する

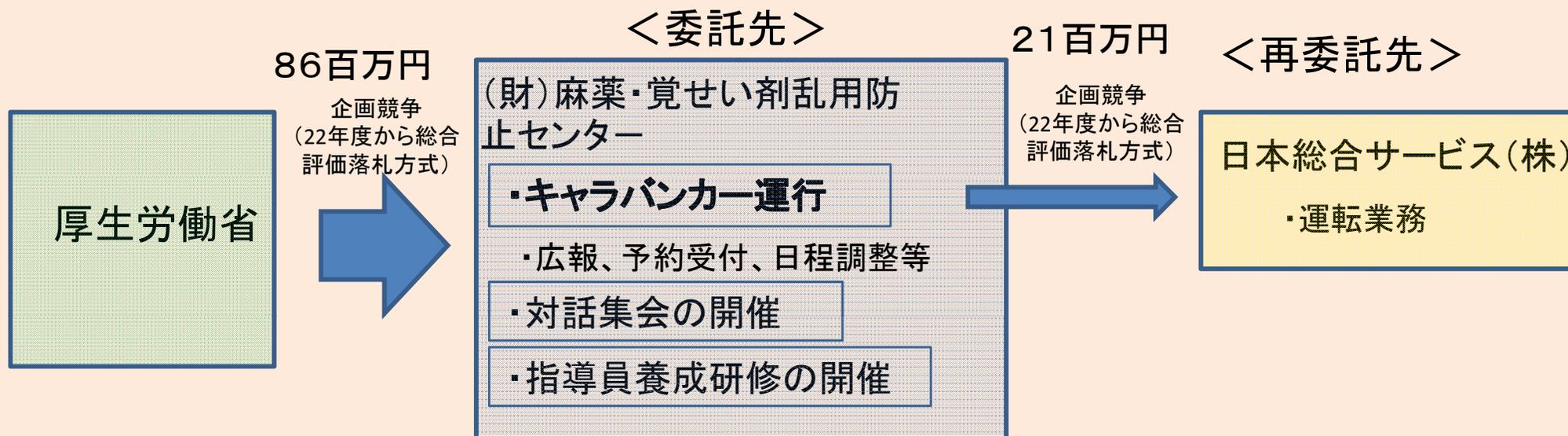
【第三次薬物乱用防止五か年戦略より抜粋】

2 現状

○ 行政事業レビュー 【平成21年度麻薬等対策推進費(広報経費)予算額 170百万円】

① 覚せい剤等撲滅啓発等委託費

【平成21年度】



② 覚せい剤防止特別対策費

(単位:百万円)

経費内訳	「ダメ。ゼッタイ。」普及運動用啓発資材	麻薬・覚せい剤乱用防止運動用啓発資材	合計
印刷製本費	2	2	5
ポスター購入費	1	1	3
発送費	1	1	1
コンテンツ作成費	1	—	1
合計	5	3	10

【平成21年度】

③ 薬物乱用防止普及啓発推進事業費

(単位:百万円)

経費内訳	全小学6年生の 保護者及び有職 無職の青少年用	全中学1年生用	全高校3年生用	合 計
印刷製本費	11	9	5	25
発送費	4	4	3	11
コンテンツ作成	1	1	1	2
合 計	16	13	9	38

④ 再乱用防止対策事業費

(単位:百万円)

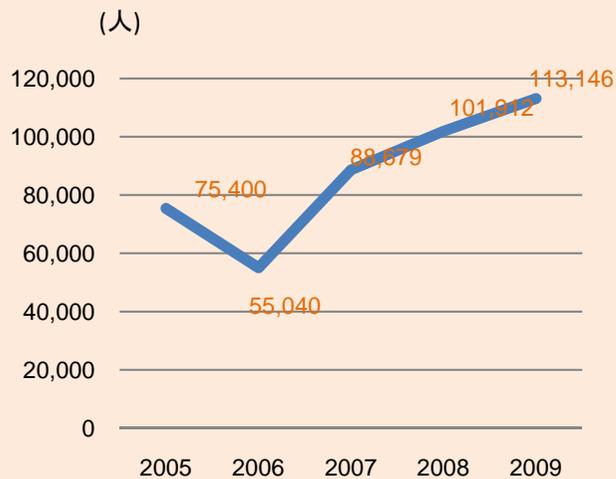
	家族読本			相談員マニュアル		合 計
	印刷製本費	発送費	コンテンツ 作成費	印刷製本費	発送費	
平成19年度	4	1	1	2	0.1	8
平成20年度	2	1	—	—	—	3
平成21年度	2	0.4	—	—	—	3
合 計	9	2	1	2	0.1	14

○ 省内事業仕分け

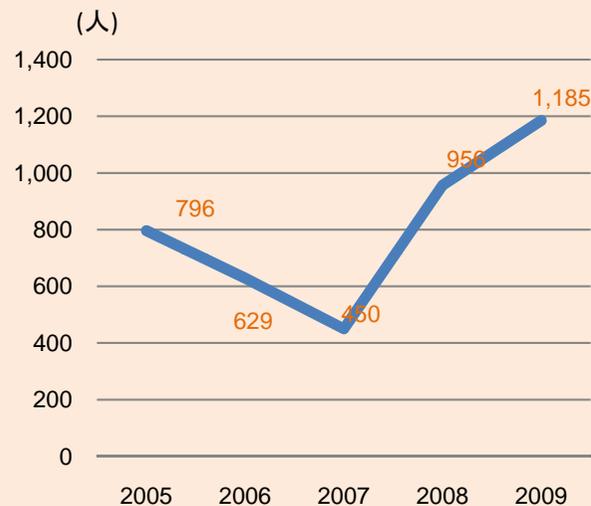


① 覚せい剤等撲滅啓発等委託費

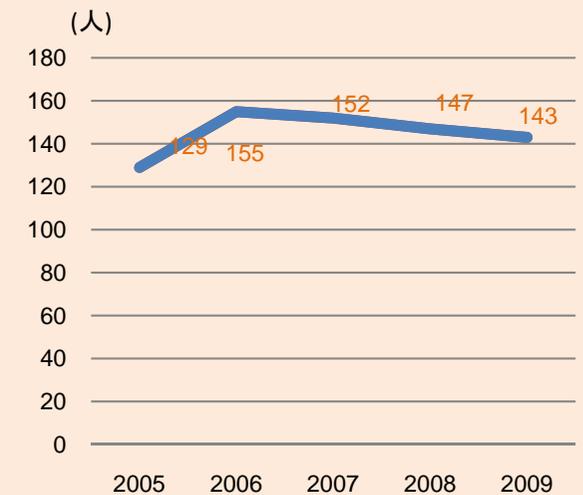
キャラバンカー見学者数



対話集会参加人数



指導員研修事業参加人数



② 覚せい剤防止特別対策費

「ダメ。ゼッタイ。」普及運動用啓発資材
(国民全般向け)



【平成21年度】
リーフレット141万部、ポスター13万部、
趣意書9万部

麻薬・覚せい剤乱用防止運動用啓発資材
(国民全般向け)



パンフレット(体験談編)13万部、パンフ
レット23万部、ポスター6万部

③ 薬物乱用防止普及啓発推進事業費

対象	全小学校 6年生の 保護者	全中学 1年生	全高校 3年生	有職・無職 の青少年
配布数	117万部	120万部	111万部	37万部
配布時期	2月	1月	2月	2月
主な配布先	都道府県・市区町村 教育委員会、都道府 県私立学校主管課、 東京都私立学校、国 立大学法人事務局	中学校、政令指定都 市教育委員会、県教 育委員会、県私学教 育課、国立大学法人 事務局	高等学校、政令指定 都市教育委員会、県 教育委員会、県私学 教育課、国立大学法 人事務局	勤労青少年関係団 体等、都道府県労働 局、都道府県薬務主 管課

④ 再乱用防止対策事業費

	家族読本	相談員マニュアル	合 計
平成19年度	4万部	2万部	6万部
平成20年度	5万部	—	5万部
平成21年度	2万部	—	2万部
主な配布先	国立精神・神経センター、麻 薬取締部、保護観察所、DAR C、全国薬物依存症家族連合 会、児童自立支援施設	都道府県薬務主管課	